

檜垣造船株式会社



特定の船種に限定せず、ニーズを重視した姿勢で
洋上風力発電の分野に活かせる船舶の建造実績も

想定分野 基礎製造(浮体式) ▶ 浮体構造物
船舶 ▶ 洋上支援船建造



次世代の海運と産業インフラを支える総合造船力

貨物船・ケミカルタンカー・特殊船・LPG/LNG運搬船など、特定の船種に限定せず、「時代のニーズに合ったよい船を建造する」を経営方針として掲げる檜垣造船。国内初となる内航LNG船やLNG燃料内航貨物船の建造をはじめ、環境負荷の低減や法規制への早期対応を重視した船舶の開発に取り組んできた。本社工場には長さ140m・幅30mの新造船船台と150tクレーン2基を備え、船舶の建造体制を整備。船体ブロックの製造と進水後の艤装は、本社の向かい側にある波方工場で行う。

波方工場には長さ250mのブロック建屋と240tクレーン2基が整備されており、洋上風力発電の基礎構造物など大型ブロックの建造も可能な規模であるといえる。さらに、船の船側にクレーンを装備した、多目的貨物船(MPP船)の建造実績もあり。超重量貨物、長尺貨物、背高貨物などのオーバーサイズ貨物やモジュールの輸送にも対応しており、洋上風力発電設備のブレードを積み込み、輸送することも可能。

採用実績・施工例

省エネ・幅広13.5型 二層甲板貨物船(ツインデッカー)



新船型13.5型(載荷重量13,000t)の二層甲板貨物船。EEDI Phase3規制値を大幅にクリアし、環境負荷低減と燃費向上を実現した。また貨物艙(ホールド)の床面積を拡張することにより、運搬貨物である鋼材やバイオマス燃料の積載能力を1万tまで高めている。

日本初のLNGデュアル燃料内航貨物船



環境省・国土交通省の支援を受け建造された日本初のLNGデュアル燃料内航貨物船。LNGをメインの燃料とし、従来の重油を燃料とする船舶に比べて24%のCO2排出量の削減を達成。内航船省エネルギー格付け制度において最高評価の「5つ星」を取得した。

主要設備機械

- 【本社工場】船台:140m×30m、150tクレーン/2基
- 【波方工場】艤装岸壁:260m、プラスト・塗装建屋、240tクレーン/2基

会社情報

事業内容/各種船舶の設計開発・建造・修理
所在地/〒799-2111 愛媛県今治市小浦町1-4-25
設立/1964年6月 資本金/4,800万円 従業員/110名
代表者/代表取締役社長 檜垣 宏彰 TEL/0898-41-9147
事務所/今治
首都圏担当/経営管理部 TEL/0898-41-9147
E-mail/ga@higaki.co.jp
URL/https://www.higaki.co.jp/